

# ボランティアは力だ。

日本財団ボランティアサポートセンターは、日本財団のボランティア育成・運営のノウハウを生かし、東京2020オリンピック・パラリンピックを成功に導きます。



東京2020大会スポンサー企業ボランティアへの独自研修として「イングリッシュ・アカデミー」を開講



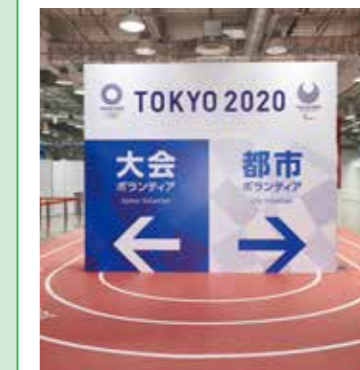
「パラ駅伝2019 in Tokyo」において、視覚障害者ボランティアの募集及びコーディネートを実施

オリエンテーション  
スタート

2月



都市ボランティアに関する連携協定を福島県と締結



東京2020大会ボランティアオリエンテーションの会場内装飾に協力

ネーミング発表

1月



大会ボランティア面談員研修スタート



「聴覚障害者向け 東京2020大会ボランティア相談会」を開催

募集終了

12月



「ボランティアに関する実態調査」を実施し、報道関係者向けワークショップにて調査結果を公表

<調査結果より抜粋>  
『困っている人』に対する意識・声かけへの実態

声かけを実施している割合は全体で41%。性別では女性、年代別では50代以上の実施割合が高く、学生では26%に留まる。



「東京2020大会ボランティア応募促進ムービー(手話ver.)」を公開



「Parafes 2018～UNLOCK YOURSELF～」において、視覚障害者ボランティアの募集及びコーディネートを実施

11月

募集スタート

9月

8月



「視覚障害者ボランティアセミナー～東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて～」を開催



「ピョンチャンオリンピック・パラリンピックのボランティアに関する調査報告書」を公開

<報告書より抜粋>ボランティアの声(現地インタビューより)

## パッション・クルー

今回インタビューしたボランティアは、ほとんどがパッションクルーという呼称を知っていた。中には、「道を歩いているとパッションクルーだと言われます。ボランティアの一体感も感じられて、ネーミングがあることは良いと思った」という意見もあった。

7月

東京2020大会  
ボランティア  
募集要項発表

6月



東京2020大会に向けたボランティア・コンセプトムービー「#2年後の夏」を公開

東京2020大会スポンサー企業へボランティアに関するサポートを開始(2018年度実績:8社)



2018 4月



シンポジウム「2020年東京大会を動かすボランティア」を開催